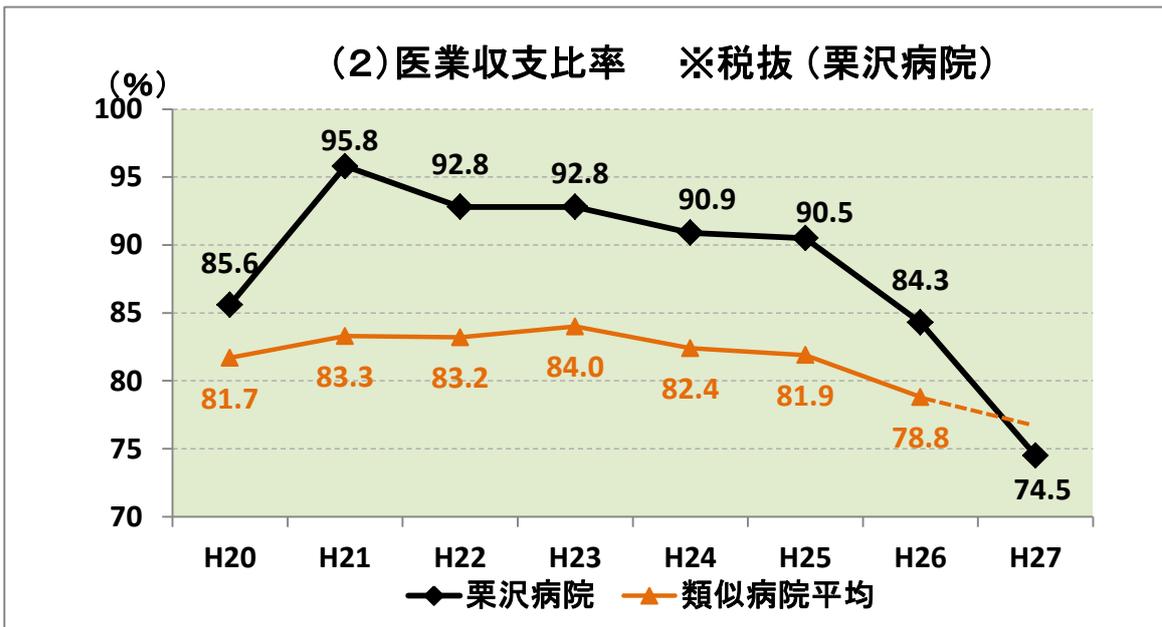


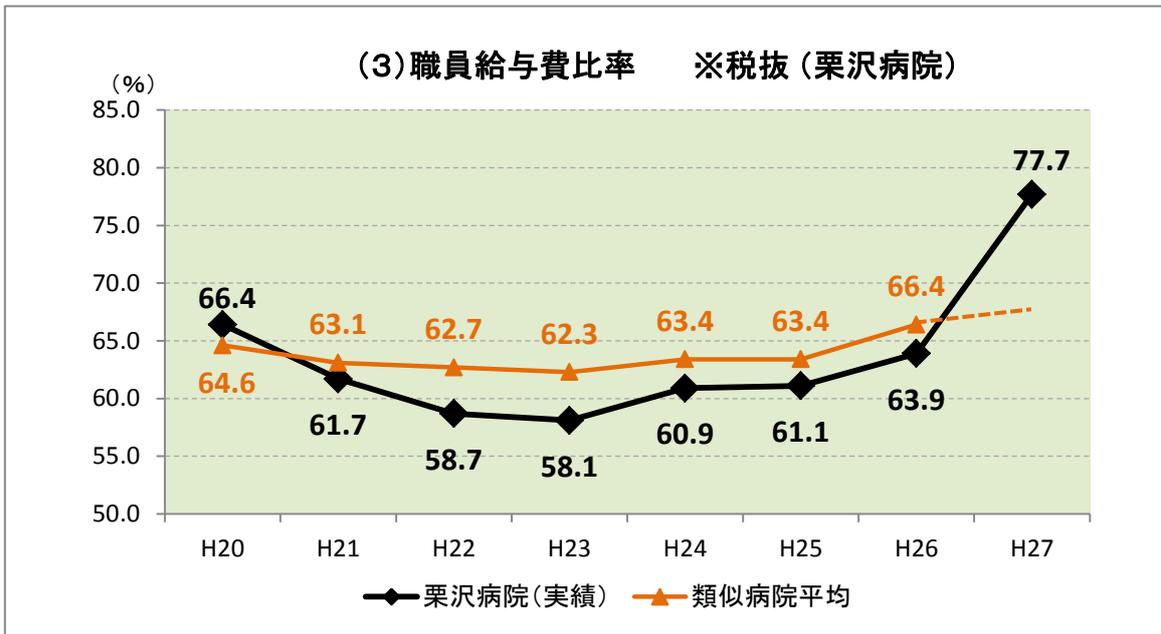
経常収支比率(税抜)は平成22年度以降減少傾向にあり、特に平成27年度は、入院収益の落ち込み等により、比率も大きく下がっております。
類似病院の平均と比較しましても、大きく下回っています。

経常収支比率＝経常収益÷経常費用
数値が大きいほど良い。100%以上が好ましい。



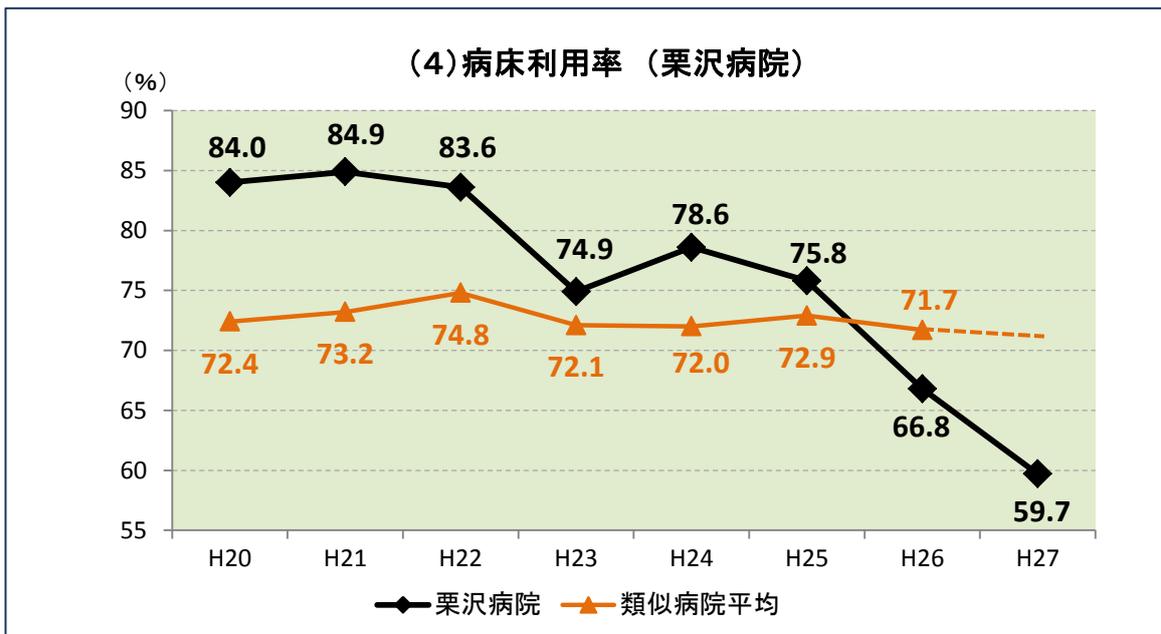
医業収支比率は、類似病院の平均と比較しましても約8ポイントほど上回っておりましたが、平成26年度以降大きく落ち込み、平成27年度は類似病院の平均を下回る見込みです。

医業収支比率＝医業収益÷医業費用
数値が大きいほど良い。



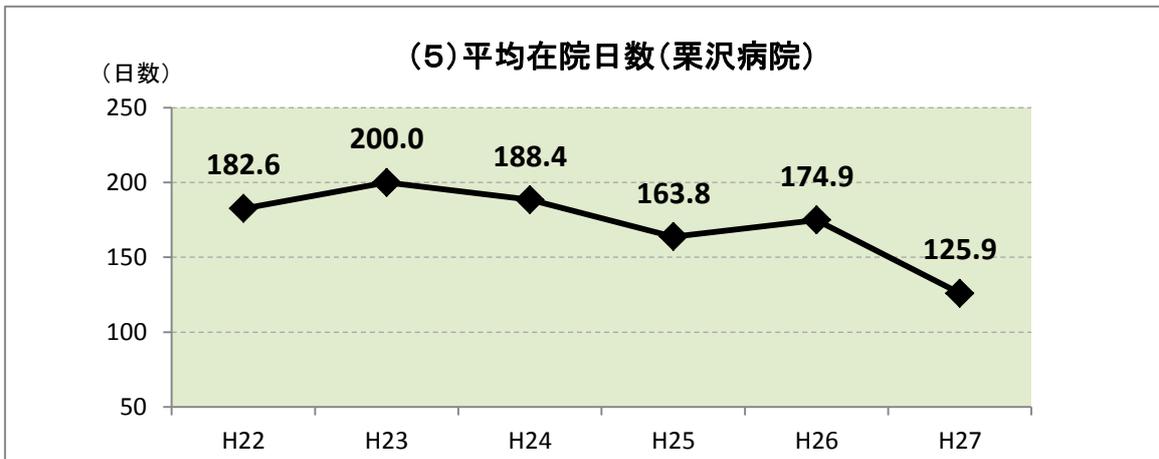
職員給与費比率(人件費率)は、類似病院と比較しましても若干下回っている状況でしたが、平成27年度は、大きく上回る見込みです。人件費については、例年大きな変動はありませんが、医業収益の減により、比率も大きく上がっています。

人件費比率＝給与費÷医業収益 数値が小さいほど良い。
一般に55%を超えると病院経営を圧迫するといわれている

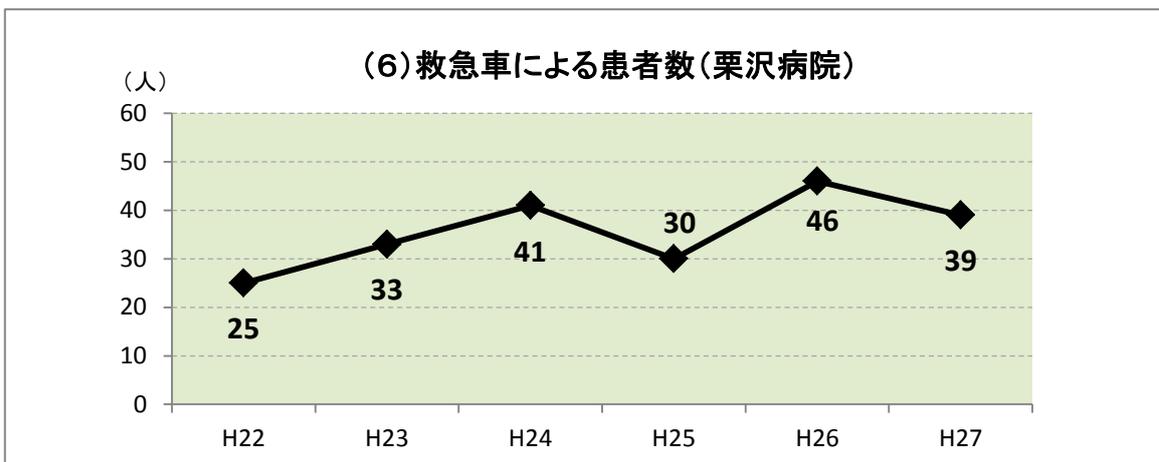


病床利用率は、平成22年度まで横ばいで推移しておりましたが、介護病床の転換による影響や医療スタッフの不足、平均在院日数の減少などにより低下しております。

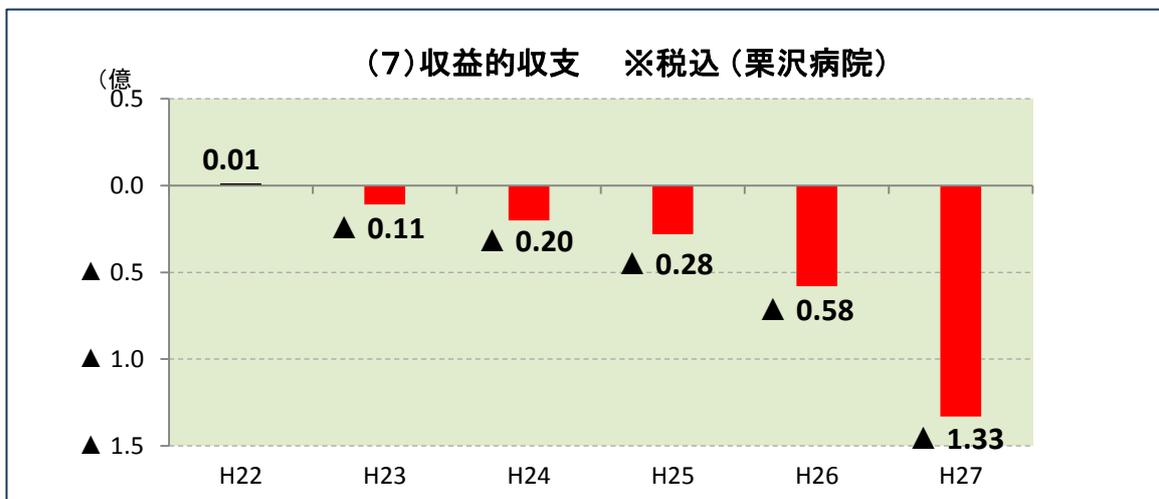
病院のベッドの利用状況を示す指標で数値が高いほど効率よく利用されている。



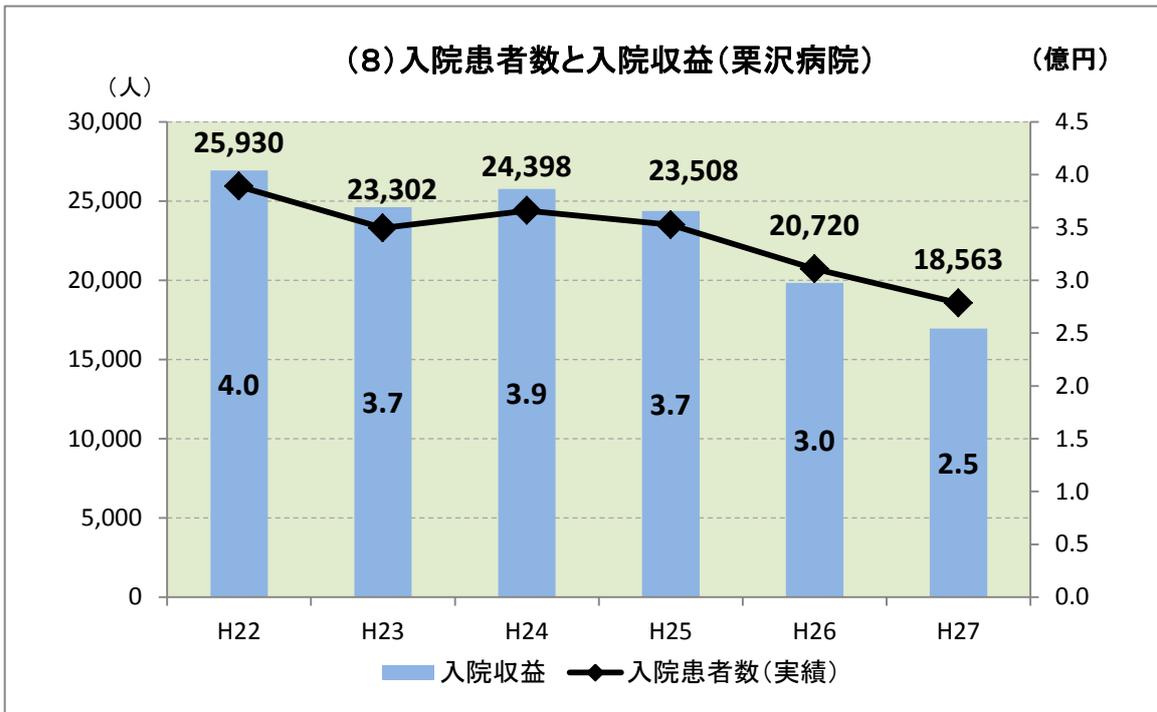
平均在院日数は、一般病床(急性期)では短いほうが良いとされていますが慢性期の病床では、一般に180日~200日と言われております。平成27年度は、重篤な患者の受入れも多くなったことから、在院日数も短くなりました。



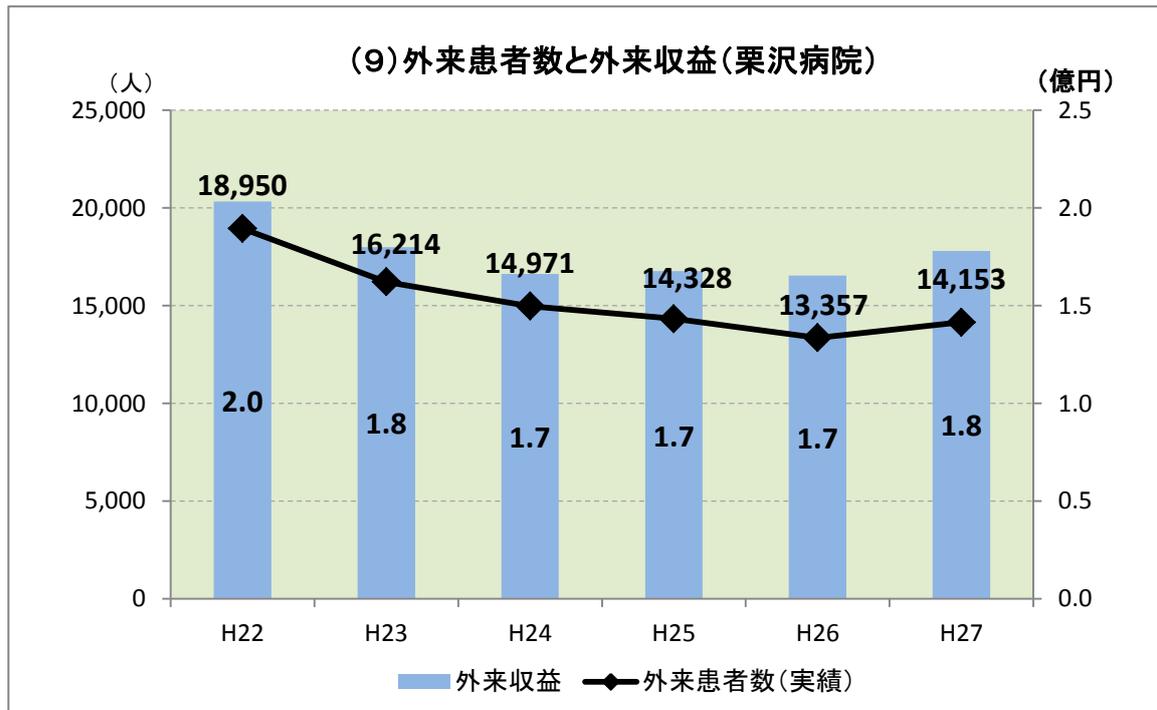
栗沢病院の救急患者は、年間約130件ですが、うち約3割が救急車による救急車による搬送です。平成27年度は39件で、うち21件の方が入院に至っています。



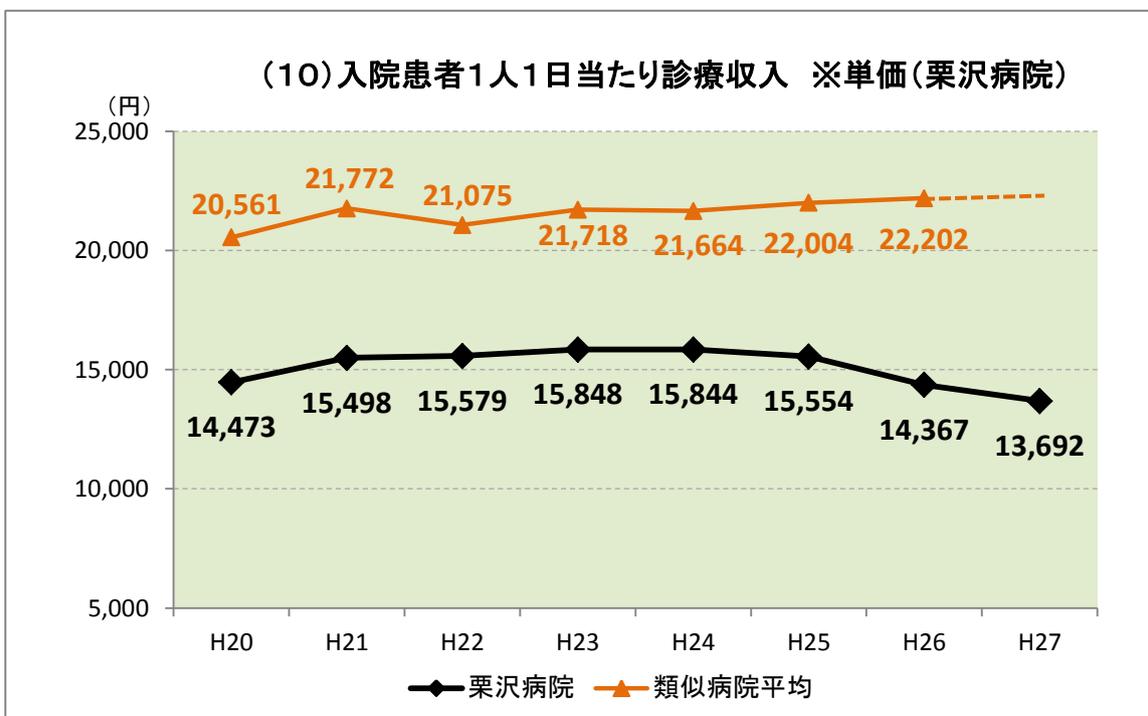
収益的収支は平成22年度に100万円の黒字を確保しましたが、その後、収支状況が悪化し、平成26年度は約5,800万円の赤字、平成27年度約1億3,300万円の赤字となっています。



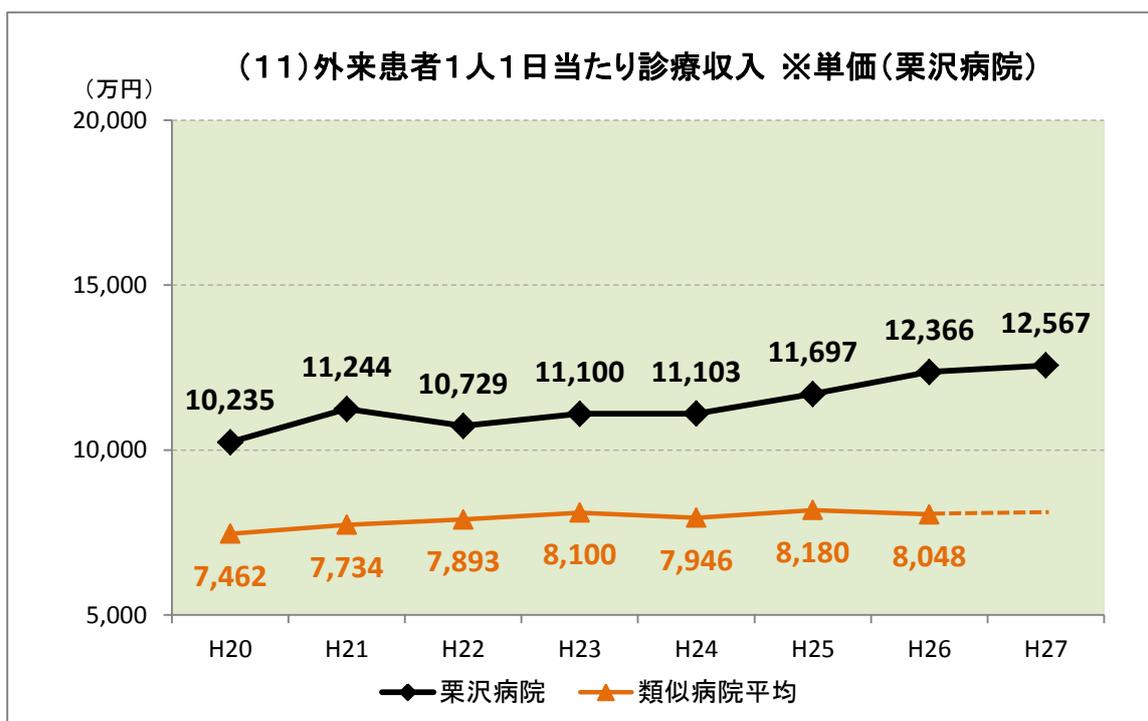
入院患者数は年々減少傾向にあり、平成27年度は前年度より2,157人少ない18,563人となっています。また、入院収益も患者数と同様の傾向を示しており、さらに、医療区分の低い低い患者の比率が増えたことにより、1人当たりの診療単価も下がり、平成27年度の入院収益は前年度より約5,000万円少ない、約2億5,000万円となっています。



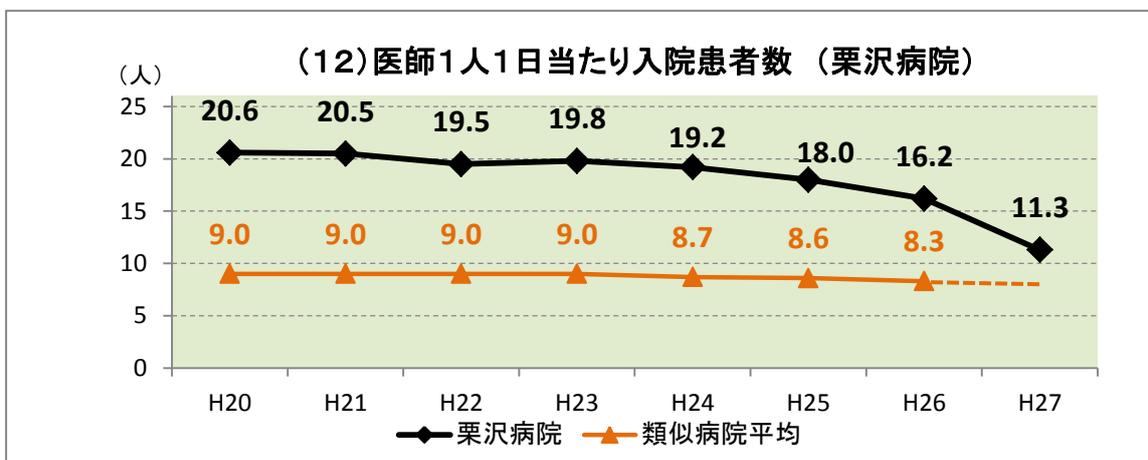
外来患者数は、地域人口の減少と共に毎年減少傾向にありましたが、平成27年度は、地域の特養施設が増床したことも影響し、増加しています。また、外来収益についても、患者数に比例し減少し、平成27年度は増加しています。



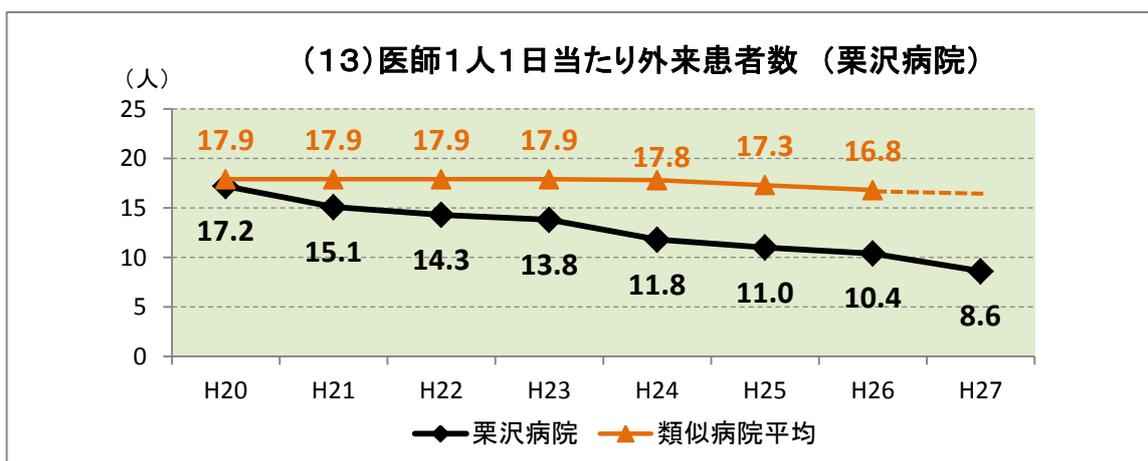
入院患者の1人当たり単価は横ばいから減少に転じておりますが、これは医療区分の低い患者の割合が増えたことに影響しております。平成27年度の類似病院の単価と比較すると約9千円ほど下回っておりますが、一般病棟や精神科病棟を含めた統計であるため、包括医療の療養病床のみの病棟としては2千円～3千円低いと考えられます。



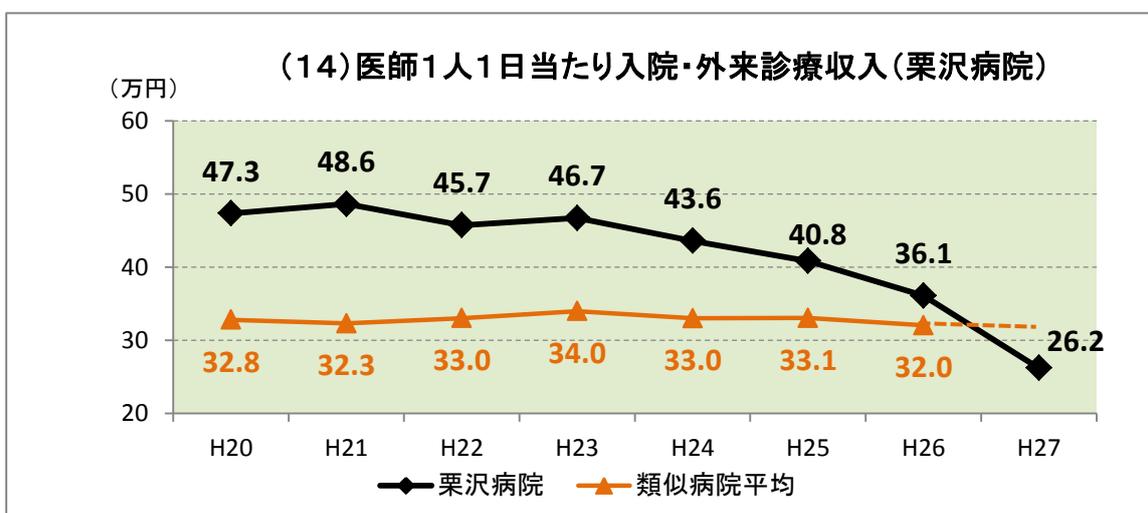
外来患者1人当たりの単価は増加しており、平成27年度は類似病院の平均と比較すると約4,000円ほど上回っています。



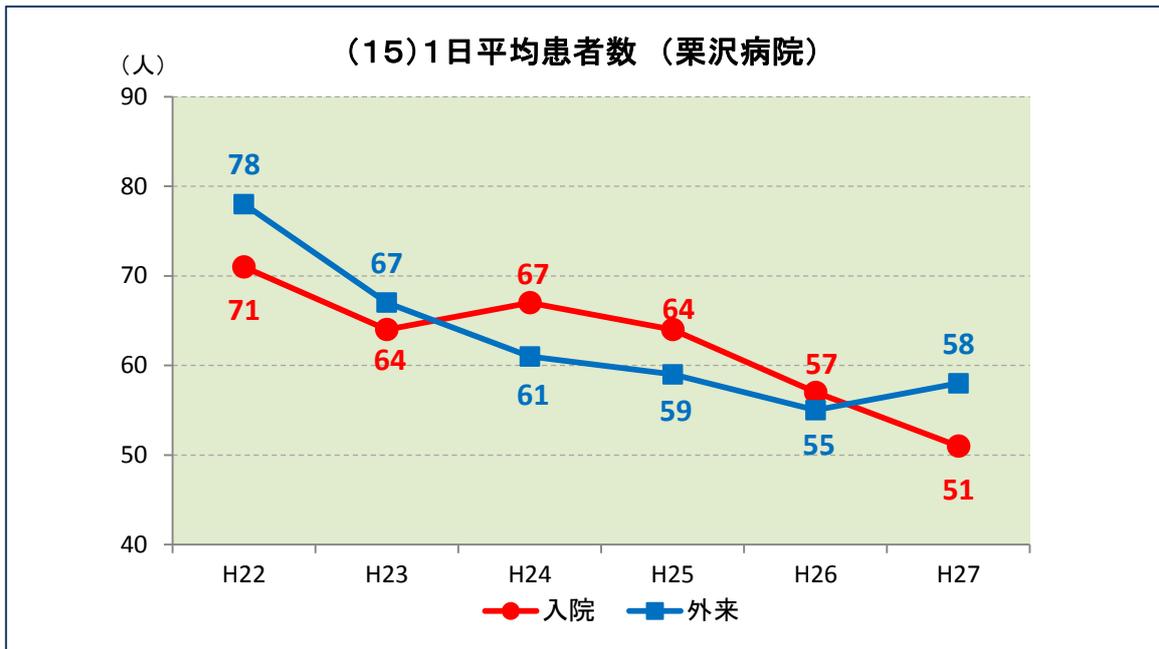
医師1人あたりの入院患者数は横ばいから減少傾向にあり、平成27年度は、類似病院の平均値と同等の患者数となります。



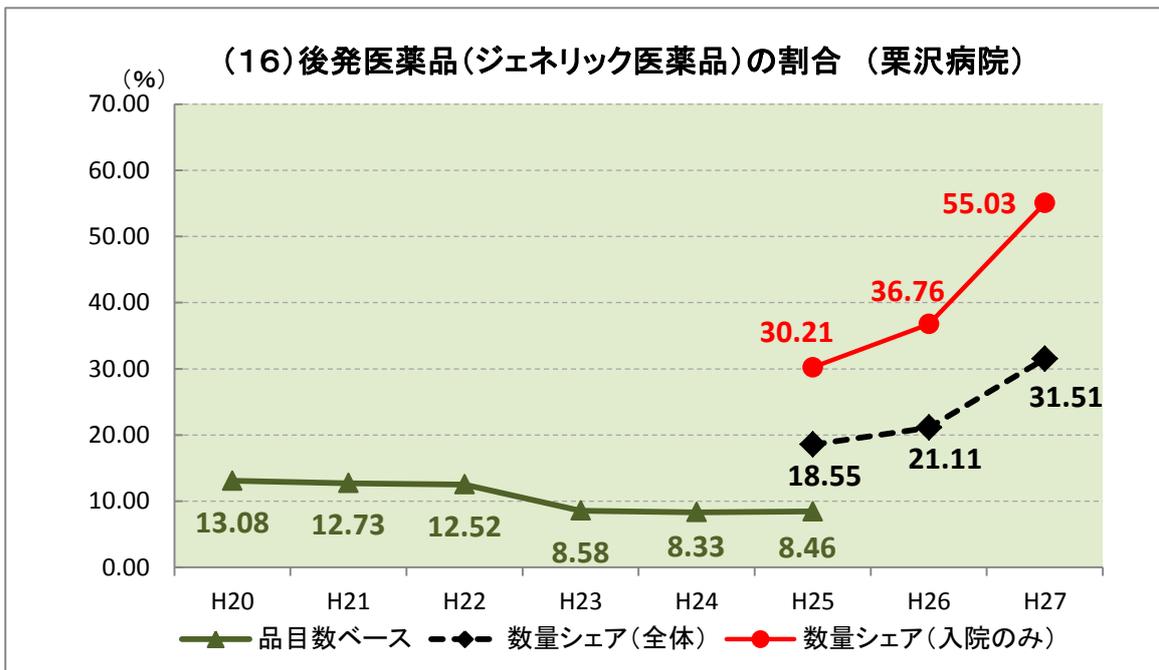
医師1人あたりの外来患者数は減少傾向にありますますが、類似病院の平均と比較しましても、下回っています。



医師1人あたりの診療収入は、診療収益の減少に伴い減少傾向にあり、平成27年度は、類似病院の平均を下回る結果となる見込みです。



1日平均の入院患者数は、毎年減少しておりますが、これは、介護病床の転換や在院日数の短縮が大きく影響しております。一方、外来患者数は、地域住民の減少に伴いここ数年、減少傾向が続いておりましたが、平成27年度は、地域の特養施設が増床したことも影響し、増加に転じております。



厚生労働省では平成25年4月に「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を策定、平成30年3月末までに数量シェア60%以上の目標を掲げていましたが、平成27年6月の閣議決定では、平成29年央に70%以上、平成30年から平成32年のなるべく早い時期に80%以上としました。

栗沢病院では、ジェネリック医薬品への切り替えについて、安全性や効能・効果、供給体制などを判断しながら、積極的に進めています。

$$\text{ジェネリック医薬品の割合} \sim \text{ジェネリック医薬品(品目数)} \div \text{総薬品(品目数)}$$